千年の森便り No.242

2024.2.28

ちば千年の森をつくる会

http://toyofusajima.html.xdomain.jp/

代表　福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

２月 18 日（日）天候 晴れ

１月の活動日が風雨により中止となったため、今回が 2024 年最初の定例活動となりました。

暖かい春の陽気の中、活動内容としては千年の森の看板の建て直し、植生保護柵の補修、ナラ枯れにより枯死したコナラの伐採などを行い心地よい汗を流しました。昼食時には鵜沢シェフから美味しいシチューの提供があり、落葉期の明るい森の中で楽しいランチタイムを過ごすことができました。鵜沢シェフありがとうございました。島内ではコショウノキが白い花を輝かせ、甘い香りを漂わせていました。参加者は、鵜沢、清水、中田家（利明、智貴、裕士）、成沢、福島、村野の会員８名でした。

次回の定例活動日は３月 17 日（日）です。ニホンジカの生息状況調査、物置の改修作業等を計画しています。多くの会員のご参加をお願いします。（福島）

○臨時活動（１月 27 日ヒメコマツ観察会）

ヒメコマツ観察会の集合写真

県の自然保護課（生物多様性センター）主催のヒメコマツ観察会が１月 27 日に豊英島で行われました。観察会に合わせて、会の活動の紹介と島内の案内のため臨時活動を行いました。参加者は、伊藤、福島の２名でした。

ヒメコマツ観察会に参加された方は、講師の中央博の尾崎さんや自然保護課のスタッフを含めて 17 名、お天気にも恵まれ島は久しぶりの賑わいでした。

ヒメコマツ植栽試験地の見学

以下は。伊藤さんの facebook の記事からの引用です。

「植栽後 15 年余を経て５メートルを超えたヒメコマツを目の前にして、中央博物館の尾崎さんから試験植栽の目的やこれまでの経緯の説明があり、熱心にメモをとる参加者の姿が印象的でした。当会の福島代表からは、会の紹介とともに、生物多様性の保全をメインにした森づくりを行って来たが、ヒメコマツは例外として持ち込みを了解した点に触れました。」

観察会のあとは、ヒメコマツ測定の補助と植物観察を行いました。（福島）

○植生保護柵の補修作業に参加して

１ 月は雨天のため活動はお休みだったので今年初めての活動日となりました。今日は大原さんの指導の下でコナラの伐採木を活用した物置補修作業かな、と重労働？を覚悟して参加したのですが、幸か不幸か大原さん欠席のため植生保護柵の補修作業に携わりました。

緑色のナイロン製（ポリエチレン製？）の保護ネットは膝下の高さで直径 30cm 内外の穴が各所に開いていました。犯人はシカというよりイノシシやノウサギなんでしょうか。この材質では動物にとっては容易に突破されそうです（鋼線入りのプラ被覆柵の方は無事でした）。とりあえず、メンバー全員で手分けしてネットの修復と支柱の交換等の補修作業を行いました。

植生保護柵に開いた穴（白線で囲んだ部分）

保護柵を一通り確認し、穴はほぼ塞いでおきましたが、ネットの材質が弱いためあくまでも応急修理の域を出ません。できれば、ステンレス芯入りのネット柵や亜鉛メッキ製の金網柵への更新がベターなのかも知れませんが、費用及び労力等の問題もあるので議論が必要ですね。

当日は穏やかに晴れて春の暖かい日差しに恵まれた一日でした。

作業に参加された皆様お疲れさまでした。（清水）

○千年の森の看板の建て直し

久しぶりの千年の森です。ナラ枯れの大木が切り倒され、明るい青空が開かれている小道を通りながら、千年広場に入りました。荷物を置いて、まず目に入ったのは根本さんの力作「千年の森の看板」が強風のため、倒れていました。このまま放置はできないと思い、考えてみました。少し右の方に移動して、穴を掘り立てる。後ろの木に寄りかからせて、木に縛る。みんなの気持ちが一致して、意外と短時間に復活させることができました。ただ、千年の森と書かれた看板がまだ付いていません。次回にも直します。

力を合わせて倒れた看板の建て直し

作業中にこの看板の重いことに驚きました。千年は無理としても、できるだけ長い間持ってくれるように材料も吟味したんだろうな。きっと自宅でパーツ毎に準備して、広場で組み立てたのかな？誰かに手伝ってもらったのかな？いろいろ想像してみました。作業の途中「この看板は制作してから１０年たっている」ことを聞きました。（村野）

○中田家を代表して智貴君から

家族三人で久しぶりに参加させていただきました。島に入ってまず、倒れてしまっていた看板を建て直しました。地面に穴を掘り、木に寄りかかる形で看板をたて、そのまま紐で固定しました。

次に、植生保護柵の補修をお手伝いさせていただきました。午前中は広場の裏の柵を、午後はほてい岬の柵を直しました。どちらの柵にも小さいものから大きいものまで、たくさんの穴が開いてしまっていて、その穴を紐で縫うように塞ぎました。柵内や柵周辺にはイノシシ、シカ、ウサギなどのフンがたくさん落ちていたため、下

の方に開いていた穴は動物によって開けられたものだと考えられました。しかし、中を荒らしている形跡はなく、とても不思議に思いました。

作業中には、アセビ、オニシバリ、コショウノキ、クロモジの花やつぼみが観察できました。また、ほてい岬からはキンクロハジロ、広場周辺では、ジョウビタキ、ヒヨドリ、ヤマガラなどの声が聞こえていました。

今年は例年より暖かく、２月のこの時期でも島内で春を感じることができました。（中田智貴）

イノシシのフン

ジョウビタキ（メス）

○ナラ枯れ枯死木伐採

今回は、ナラ枯れによる枯死木を 10 本伐採しました。毎度のことですが、ハンマーで幹を叩きながら腐朽の進行具合を確認し、安全性を確認しながら作業しました。作業は福島さんと成沢の２名で実施しました。人数が少ないので、無理せずかかり木が起きにくそうな倒しやすいものを中心に伐採しました。また、以前の反省を生かし、二股になっているものは入り皮の可能性を考慮し、二股箇所より上部で伐採するようにしました。

別途、枯れたコナラが植生保護柵のネットに倒れ掛かってしまっていて、それは２本除去しました（植生保護柵にはイノシシが開けたと思われる穴が複数あり、人もくぐれるほどの大きさでした…）。

枯死木の伐採作業は９本目まで順調に進み、作業時間的にも切りがよいところで 10 本目をラストとしました。ここまで順調だったので、「最後にかかったりして」なんて冗談を言っていたら、見事かかりました…。言霊ですかね（笑）。かかった木には周囲に危険を知らせるため、黄色テープを巻き付けておきました。次回以降、人手と機械がある時に対処します。風はほとんど吹いておらず、天気は晴れ、気温も低くなく伐採日和でした。（成沢）

腐朽程度を確認して慎重に追い口を入れて伐採

○センサーカメラの動物たち

CAM１、２については電池切れのためか記録なし。

これまで記録が少なかったCAM３でニホンジカ、キョン、イノシシが記録されていました。

ニホンジカとキョンは、最大２頭が同時に記録されていました。

また、イノシシは４４日（１１月１９日～１月１日）のうち１３日と頻繁に記録されていました。

設置期間：１１月１９日～１月２７日

日数は記録された日数で、同じ日に複数回記録されても１日としています。

ＣＡＭ１（つり橋着岸点付近）：記録なし

ＣＡＭ２（ホテイ岬への分岐点付近）：記録なし

ＣＡＭ３（ホテイ岬先端付近）：

ニホンジカ	３日	キョン	６日
イノシシ	１３日	ヤマガラ	１日

（福島）

ニホンジカ（２頭）

イノシシ

お知らせ

○次回の定例活動は３月１７日（日）です。

ニホンジカの生息状況調査、大原さんが参加できれば物置の改修作業を予定しています。

ヒメコマツの測定補助については、１月の臨時活動日に終了しているため今回は行いません。

多くの会員のご参加をよろしくお願いします。

ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。